

# 伊方周辺 全戸訪問

## 四電再稼働へ20キロ圏2.8万戸

四国電力は22日、原子力規制委員会から新規制基準を満たすとされた伊方原発3号機（愛媛県）の再稼働に向けて、半径20キロ圏内に住む約2万8千戸の全戸訪問を始めた。8月8日まで、四電の本支店などの社員延べ約1500人が2人1組で訪ね、地震や津波、重大事故への対応などを1フレットを配って説明す

る。四電はこれまで、原発が立地する伊方町と隣接する八幡浜市の住民に対して原則年1回、戸別訪問して意見や要望を聞き取ってきた。東日本大震災以降は、両市町に加えて大洲、西予両市の一部まで対象を広げた。四電の広報担当者は「規制委の許可を受けた夕イミングで速やかに説明す

ることにした」と話す。伊方3号機について、規制委は15日、四電が申請した安全対策のための基本方針を許可した。再稼働が可能になるのはこの冬以降とみられる。新基準を満たすとされたのは、九州電力川内1、2号機（鹿児島県）、関西電力高浜3、4号機（福井県）に続く3例目。